

- 1 次の取引の仕訳を示しなさい。ただし、商品に関する勘定は3分法によること。
- a. 現金 ¥260,000 を普通預金に預け入れた。
 - b. 北海道商店から商品 ¥650,000 を仕入れ、代金はさきに支払ってある内金 ¥130,000 を差し引き、残額は掛けとした。
 - c. 出張中の従業員から当店の当座預金口座に ¥320,000 の振り込みがあったが、その内容は不明である。
 - d. 売買目的で保有している福島商事株式会社の株式20株（1株の帳簿価額 ¥69,000）を1株につき ¥71,000 で売却し、代金は現金で受け取った。
 - e. 山形商店から、商品代金として受け取っていた同店振り出しの約束手形 ¥125,000 を取引銀行で割り引き、割引料 ¥1,000 を差し引かれた手取金 ¥124,000 は当座預金とした。
 - f. 宇都宮市役所から固定資産税の納税通知書を受け取り、ただちにこの税額 ¥180,000 を現金で納付した。

- 2 宮城商店の下記の取引について、
- (1) 仕訳帳に記入して、総勘定元帳の売掛金勘定に転記しなさい。
 - (2) 売上帳・売掛金元帳に記入して、締め切りなさい。
- ただし、
- i 商品に関する勘定は3分法によること。
 - ii 仕訳帳の小書きは省略する。
 - iii 元丁欄には、売掛金勘定に転記するときだけ記入すればよい。

取 引

7月 7日 秋田商店から次の商品を仕入れ、代金のうち ¥450,000 は小切手#7を振り出して支払い、残額は掛けとした。

A 品	800個	@¥350	¥280,000
B 品	700〃	〃〃600	¥420,000

7月 5日 青森商店に次の商品を売り渡し、代金は掛けとした。

B 品	250個	@¥900	¥225,000
-----	------	-------	----------

7月 7日 青森商店に売り渡した上記商品の一部に品違いがあったので、次のとおり返品された。なお、この代金は売掛金から差し引くことにした。

B 品	20個	@¥900	¥18,000
-----	-----	-------	---------

7月 2日 岩手商店に次の商品を売り渡し、代金の一部については下記の約束手形#6で受け取り、残額は掛けとした。

A 品	400個	@¥500	¥200,000
B 品	300〃	〃〃900	¥270,000

No. 6 約束手形

宮城県仙台市泉区七北田75
宮城商店 宮城 一郎 殿

収入
印紙
200円
岩手

金額
¥400,000

上記金額をあなたまたはあなたの指図人へこの約束手形と引き替えにお支払いいたします
平成 〇 年 1 月 21 日
振出地
住所 岩手県盛岡市本宮2-35-1
振出人 岩手商店
岩手 五郎

支払期日 平成 〇 年 2 月 21 日
支払地 岩手県盛岡市
支払場所
株式会社 全商銀行盛岡支店

盛岡 0301
0914-003

7月 29日 岩手商店から売掛金の一部 ¥190,000 を同店振り出しの小切手#11で受け取った。

3 群馬商店の次の取引を入金伝票・出金伝票・振替伝票のうち、必要な伝票に記入しなさい。ただし、不要な伝票は空白のままにしておくこと。

取引

6月/9日 千葉商店から商品陳列用ケース ¥210,000 を買い入れ、代金は月末に支払うことにした。

(伝票番号 No.59)

〆 日 商品売上の仲介をおこない、埼玉商店から手数料として ¥34,000 を現金で受け取った。(伝票番号 No.47)

4 次の各問いに答えなさい。

(1) 栃木商店の次の勘定記録と当座預金出納帳から、(ア)と(イ)の金額を求めなさい。ただし、限度額を ¥300,000 とする当座借越契約を結んでいる。

当 座 預 金			当 座 借 越		
1/1 前期繰越	50,000	1/12 仕 入 ()	1/12 仕 入	40,000	
10 売 上 (ア)					

当 座 預 金 出 納 帳

平成 〇年	摘 要	預 入	引 出	借 または 貸	残 高
/ /	前 月 繰 越	50,000		借	50,000
/ 〇	前橋商店に商品売り上げ	()		〃	140,000
/ 2	水戸商店から商品仕入れ 小切手#53		(イ)	貸	()

(2) 茨城商店（個人企業）の下記の資本金勘定と資料によって、次の金額を計算しなさい。

a. 期間中の費用総額

b. 期首の資産総額

資 本 金		資 料	
12/31 次期繰越 ()	1/1 前期繰越 ()	i 期首の負債総額	¥1,180,000
	12/31 損 益 430,000	ii 期間中の収益総額	¥2,570,000
2,630,000	2,630,000		

(3) 次の各文の [] のなかに、下記の語群のなかから、もっとも適当なものを選び、その番号を記入しなさい。

a. 簿記では、現金や備品などの財貨や、売掛金や貸付金などの債権を [ア] という。

b. 売掛金勘定に対する貸倒引当金勘定や資本金勘定に対する引出金勘定のように、ある勘定の金額を修正する役割をもつ勘定を [イ] という。

1. 評 価 勘 定 2. 負 債 3. 統 制 勘 定 4. 純 資 産 5. 資 産

5 神奈川商店（個人企業 決算年/回 /2月3/日）の総勘定元帳勘定残高と決算整理事項は、次のとおりであった。よって、

(1) 決算整理仕訳を示しなさい。

(2) 備品勘定と消耗品費勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。

(3) 損益計算書を完成しなさい。

元帳勘定残高

現 金	¥ 470,000	当 座 預 金	¥1,852,000	売 掛 金	¥2,400,000
貸 倒 引 当 金	12,000	繰 越 商 品	710,000	前 払 金	460,000
備 品	840,000	支 払 手 形	820,000	買 掛 金	1,300,000
資 本 金	4,200,000	売 上	9,298,000	受 取 手 数 料	58,000
仕 入	6,954,000	給 料	1,350,000	支 払 家 賃	576,000
消 耗 品 費	60,000	雑 費	18,000	現金過不足 (貸方残高)	2,000

決算整理事項

a. 期末商品棚卸高 ¥730,000

b. 貸 倒 引 当 金 売掛金残高の2%とする。ただし、差額を計上する方法によること。

c. 備品減価償却高 取得原価 ¥960,000 残存価額は零(0) 耐用年数は8年とし、定額法により計算し、直接法で記帳している。

$$\text{定額法による年間の減価償却費} = \frac{\text{取得原価} - \text{残存価額}}{\text{耐 用 年 数}}$$

d. 現金過不足勘定の ¥2,000 は雑益とする。

1

	借方	貸方
a		
b		
c		
d		
e		
f		

2 (1)

仕 訳 帳

1

[illegible]

帳元定勘総

金 掛 壳

4

平成年	摘要	借方	平成年	摘要	貸方
/ /	前期繰越	✓ 330,000			

(2) (注意) 売上帳・売掛金元帳は締め切ること。

帳 上 売

1

[illegible]

帳元金掛売

青 森 商 店

1

[illegible]

岩 手 商 店

2

平成 〇年		摘要	借方	貸方	借はまた貸 は	残高
/	/	前月繰越	210,000		借	210,000

試 験 場 校

受 験 番 号

3級の1得点

3

入金伝票		No.	
平成○年 月 日			
科目	入金先	殿	
摘要	金額		
合計			

出金伝票		No.	
平成○年 月 日			
科目	支払先	殿	
摘要	金額		
合計			

振替伝票				No.			
平成○年 月 日							
勘定科目	借方	勘定科目	貸方				
合計		合計					
摘要							

4

(1)	ア	イ	(2)	a	b	(3)	ア	イ
	¥	¥		¥	¥			

5

(1)	借方	貸方
a		
b		
c		
d		

- (2) (注意) i 消耗品費勘定の記録は、合計額で示してある。
ii 勘定には、日付・相手科目・金額を記入し、締め切ること。

備品	7	消耗品費	19
1/1 前期繰越	840,000		60,000

- (3) 損益計算書
神奈川商店 平成○年/月/日から平成○年/2月3/日まで

費用	金額	収益	金額
売上原価		売上高	
給料		受取手数料	
()		()	
()			
支払家賃			
消耗品費			
雑費			
()			

試験場校	受験番号

3級の2得点

総得点

1

	借 方	貸 方
a	普 通 預 金 260,000	現 金 260,000
b	仕 入 650,000	前 払 金(または前渡金) 130,000 買 掛 金 520,000
c	当 座 預 金 320,000	仮 受 金 320,000
d	現 金 1,420,000	有 価 証 券(または売買目的有価証券) 1,380,000 有 価 証 券 売 却 益 40,000
e	当 座 預 金 124,000 手 形 売 却 損 1,000	受 取 手 形 125,000
f	租 税 公 課(または固定資産税) 180,000	現 金 180,000

2

(1)

仕 訳 帳

1

平成 〇年	摘 要	元 子	借 方	貸 方
/ /	前期繰越高	✓	6,520,000	6,520,000
7	(仕 入) 諸 口		700,000	
	(当座預金)			450,000
	(買掛金)			250,000
15	(売掛金)	4	225,000	
	(売 上)			225,000
17	(売 上)		18,000	
	(売掛金)	4		18,000
21	諸 口 (売 上)			470,000
	(受取手形)		400,000	
	(売掛金)	4	70,000	
29	(現 金)		190,000	
	(売掛金)	4		190,000

総 勘 定 元 帳

売 掛 金

4

平成 〇年	摘 要	仕 子	借 方	平成 〇年	摘 要	仕 子	貸 方
/ /	前期繰越	✓	330,000	1 17	売 上	1	18,000
15	売 上	1	225,000	29	現 金	〃	190,000
21	売 上	〃	70,000				

(2) (注意) 売上帳・売掛金元帳は締め切ること。

売 上 帳

1

平成 〇年	摘 要	内 訳	金 額
1 15	青森商店 掛け		
	B 品 250個 @¥900		225,000
17	青森商店 掛け戻り		
	B 品 20個 @¥900		18,000
21	岩手商店 約手・掛け		
	A 品 400個 @¥500	200,000	
	B 品 300〃 〃 〃 900	270,000	470,000
31	総売上高		695,000
〃	売上戻り高		18,000
	純売上高		677,000

売 掛 金 元 帳

青 森 商 店

1

平成 〇年	摘 要	借 方	貸 方	借 また は 貸	残 高
/ /	前月繰越	120,000		借	120,000
15	売り上げ	225,000		〃	345,000
17	売上戻り		18,000	〃	327,000
31	次月繰越		327,000		
		345,000	345,000		

岩 手 商 店

2

平成 〇年	摘 要	借 方	貸 方	借 また は 貸	残 高
/ /	前月繰越	210,000		借	210,000
21	売り上げ	70,000		〃	280,000
29	回 収		190,000	〃	90,000
31	次月繰越		90,000		
		280,000	280,000		

3

入金伝票				No. 47	
平成○年 6 月 19 日					
科目	受取手数料	入金先	埼玉商店 殿		
摘要			金額		
商品売上の仲介手数料			3 4 0 0 0		
合 計			3 4 0 0 0		

出金伝票				No. _____	
平成○年 月 日					
科目		支払先	殿		
摘要			金額		
合 計					

振 替 伝 票													No. 59				
平成○年 6 月 19 日																	
勘 定 科 目			借 方					勘 定 科 目			貸 方						
備 品			2	1	0	0	0	0	未 払 金			2	1	0	0	0	0
合 計			2	1	0	0	0	0	合 計			2	1	0	0	0	0
摘要		千葉商店から商品陳列用ケース買入れ 月末払い															

4

(1)	ア	イ	(2)	a	b	(3)	ア	イ
	¥ 90,000	¥ 180,000		¥ 2,140,000	¥ 3,380,000		5	1

5

(1)

	借	方	貸	方	
a	仕	入	710,000	繰越商品	710,000
	繰越商品	730,000	仕	入	730,000
b	貸倒償却	36,000	貸倒引当金	36,000	
c	減価償却費	120,000	備	品	120,000
d	現金過不足	2,000	雑	益	2,000

- (2) (注意) i 消耗品費勘定の記録は、合計額で示してある。
ii 勘定には、日付・相手科目・金額を記入し、締め切ること。

備 品				7
1/1 前期繰越	840,000	12/31 減価償却費	120,000	
		〃 次期繰越	720,000	
	840,000		840,000	

消 耗 品 費				19
	60,000	12/31 損 益	60,000	

- (3) 損 益 計 算 書
神奈川商店 平成○年/月/日から平成○年/2月3/日まで

費 用	金 額	収 益	金 額
売 上 原 価	6,934,000	売 上 高	9,298,000
給 料	1,350,000	受 取 手 数 料	58,000
(貸倒償却)	36,000	(雑 益)	2,000
(減価償却費)	120,000		
支払家賃	576,000		
消耗品費	60,000		
雑 費	18,000		
(当期純利益)	264,000		
	9,358,000		9,358,000

(貸倒償却は、貸倒引当金繰入でもよい。)